

交通不便地域における高齢者移動支援事業 「たすけあいプロジェクト」の取組



豊田市 都市整備部交通政策課
課長 中垣 秋紀

豊田市の紹介 ～豊田市の印象は？～



豊田市の位置



女性 200,373人
男性 222,169人
人口 422,542人

(出典：平成27年国勢調査)

【財政力指数(総務省)】
H26年・・・19位
H27年・・・33位
H28年・・・18位/1741自治体

「クルマのまち」 「ものづくりのまち」



豊田スタジアム



豊田市美術館



スカイホール豊田

豊田市中央図書館

豊田市の紹介 ～豊かな自然をあわせ持つまち～



■平成17年に6町村と合併



■市域の7割を森林が占める



■都市近郊部にも豊かな自然環境



■豊かな自然・農産物・特産物も豊富



合併により市域が拡大



高度経済成長と昭和の大合併
・産業誘致による工場の分散立地
・急増する人口のための住宅団地整備
・周辺5町村との合併（1956～70年）

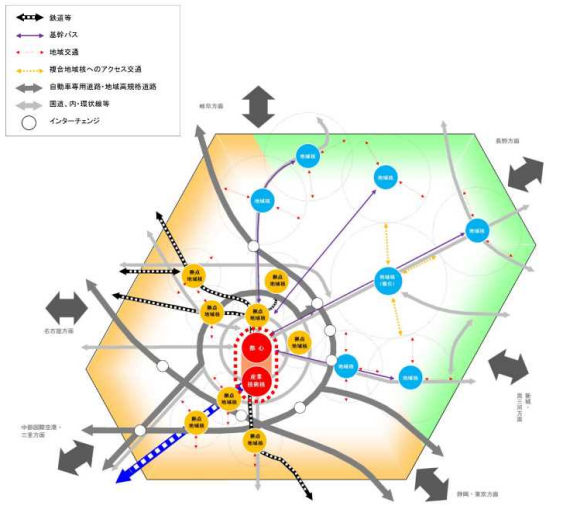
地方分権と平成の大合併
・周辺6町村との合併（2005年）
・多核ネットワーク型都市構造

日本の縮図
・「都市と山間部」
・「超高齢社会」
・持続可能な都市のモデル

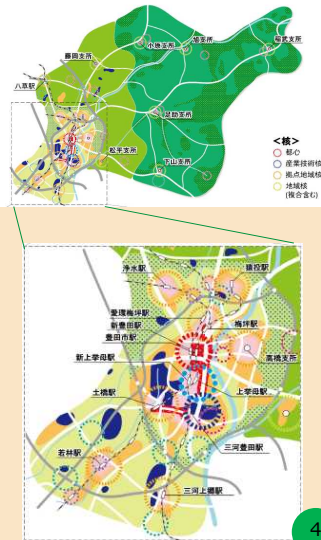
多核ネットワーク型都市構造



■ 将来都市構造イメージ

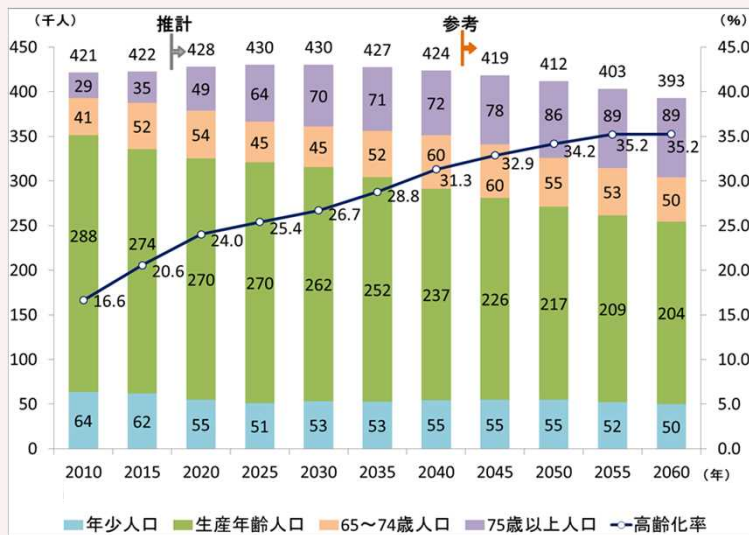


■ 土地利用基本構想イメージ



4

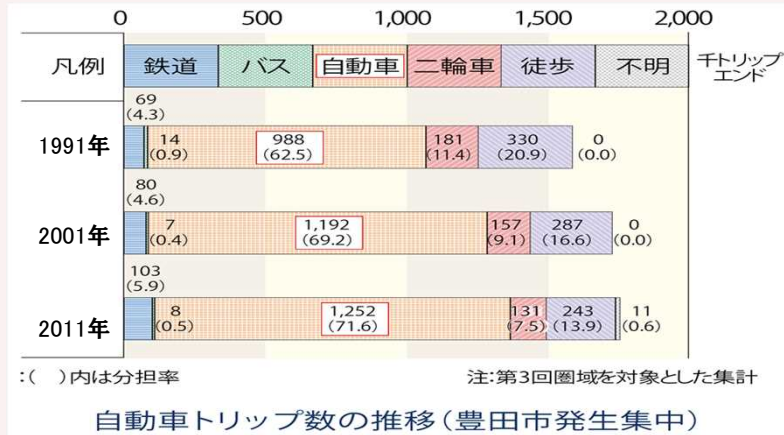
豊田市の将来人口



○本市の高齢化率は、年々増加、2040年に31.3%と推計。
 ○特に、中山間地域で高齢化が進展しており、既に高齢化率が50%に達している地区もある。

5

豊田市の交通の現状(代表交通手段分担率)



- 自動車分担率が増加傾向にあり、7割を超えている。
- 今後も、さらに自動車分担率が増加する見込み。
- 免許保有率は都市圏平均より高く、特に、高齢者(70歳以上)の保有率が約80%と高い。

資料：総合交通体系調査(豊田市パーソントリップ調査) [2011年(H23年)調査]

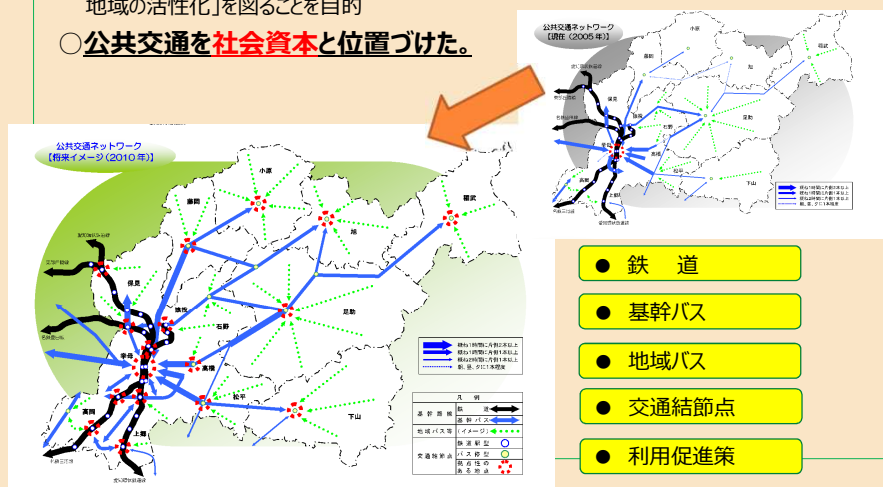
6

公共交通基本計画の策定(H19.3)



● 利便性の高い公共交通ネットワークの構築

- 合併を契機に「都市としての一体性の形成」、「都市と農山村の共生」、「交流人口拡大による地域の活性化」を図ることを目的
- 公共交通を**社会資本**と位置づけた。

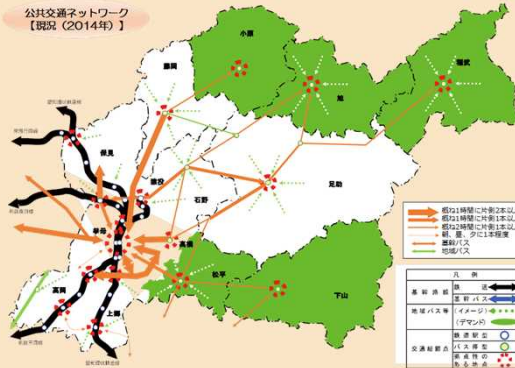


7

公共交通ネットワークの整備



公共交通ネットワーク
【概況 (2014年)】



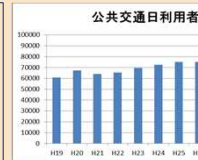
- 鉄 道：都市形成の骨格
- 基幹バス：鉄道を補完し市内各拠点を広域に結ぶ
<21路線運行>
(名鉄バス9路線 おいでんバス12路線)
- 地域バス：地域内のフィーダーとして地域特性に応じ運行
<14地区で運行>

● 豊田市のバス (おいでんバス・地域バス)
H30年度年間利用者数 282万人
⇒11年連続増加

公共交通基本計画の改定 (H28.3)

- ・ネットワークの整備
⇒ネットワークの質の向上
- ・網形成計画に位置づけ

立地適正化計画策定 (H31.3)

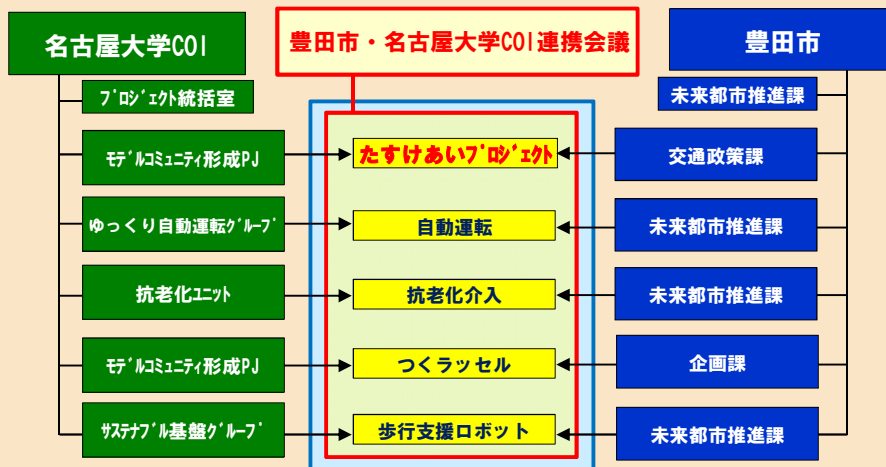


10年前と比べ、鉄道もバスも利用者が大幅に増加

名古屋大学COIとたすけあいプロジェクト



豊田市と名古屋大学COIの連携体制(2019年度)



豊田市つながる社会実証推進協議会 (地域活性化総合特区の活用推進)

事業の概要



たすけあいプロジェクト (旧 あすけあいプロジェクト)

《事業の目的》

山村部における**モビリティ向上、外出促進、健康維持**等を総合的に支援し、高齢者が健やかで楽しい暮らしを続けられる地域づくりを行う。

《実施地域》

- ・ 足助・旭地区
⇒H28年～(H31年実装化)
- ・ 稲武地区
⇒導入に向け調整中



実施地域<足助地区・旭地区>



	足助地区	旭地区	豊田市
人口	7,647	2,652	425,340
高齢化率	40%	45%	23%

2019年4月時点

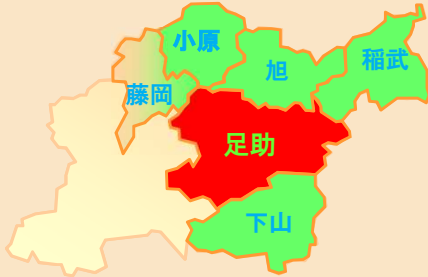


- ・ 豊田市中心市街地から足助中心地までバスで45～50分間

《バスの運行状況》

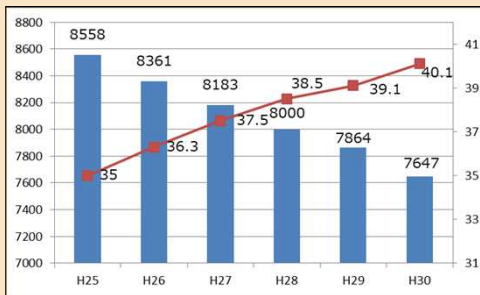
- ・ 足助地区：13路線の定時定路バス（各路線週1日・2便/日）
- ・ 旭地区：4路線の定時定路バス（各路線週2日・2便/日）+デマンドバス（平日毎日正午～20時）

実施地域<足助地区>



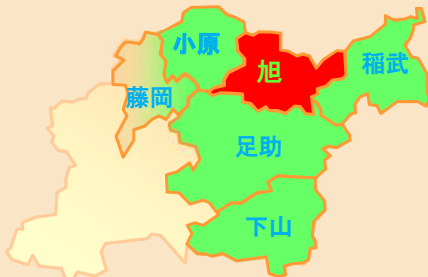
足助地区には全国でも屈指の紅葉の名所「香嵐渓」があり、その周辺には「美しい日本の歴史的風土100選」にも選ばれた歴史的な街並みが広がり、豊田市の代表的な観光地となっている。

「人口と高齢化率の推移」



12

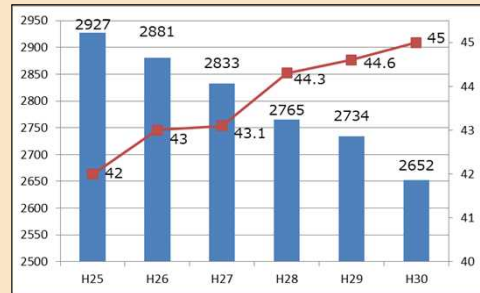
実施地域<旭地区>



旭地区には矢作川が流れており、昔から川とともに暮らしてきた歴史がある。平成8年には「全国水の郷百選」に認定された。

温泉地もあり、夏には数千の風鈴が街中に涼しげな音を奏でる。

「人口と高齢化率の推移」



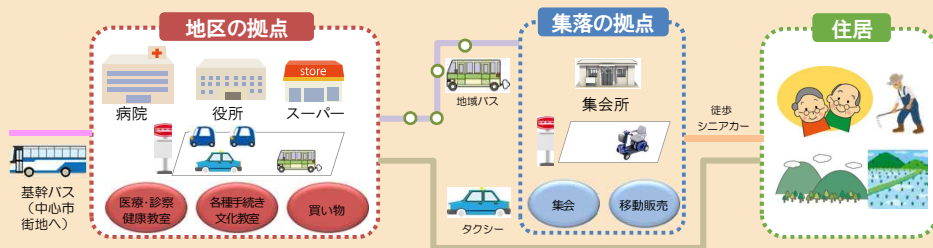
13

足助・旭地区の現状



課題

- 地域バスは各路線週1または2往復のサービス
- タクシーは地域全体で3台、住居から地区拠点までは高運賃
- 集落拠点からのラストマイル問題
- お出かけ情報が一元化されていない
- 健康に不安を持つ住民の増加



14

たすけあいプロジェクトの取組内容



独居高齢者または高齢者のみで暮らす方を対象に以下のサービスを実施

たすけあいカー	マッチングシステムを活用して、高齢者の移動をボランティアドライバーがマイカーで相乗り
タクシム	タクシーの相乗りマッチングシステム
健康見守り	高齢者の自宅へ人感センサーを設置することで、離れて暮らす家族が見守りできる環境を整える。交流会の開催。
おでかけ支援	タブレットを通じたお出かけ情報の提供、おひさまカフェの開催
たすけあいポイントの運用	ボランティアドライバーに対する利用者からのポイント支払い（ガソリン代実費分）と、そのポイントの地元商品券への交換

15

サービス内容と料金体系



【サービス内容】	プラン1	プラン2
人感センサーによる見守り	●	
タブレットによる見守り(幸せ度の入力)	●	●
ボランティア輸送の予約	●	●
タブレットによる脳トレ	●	●

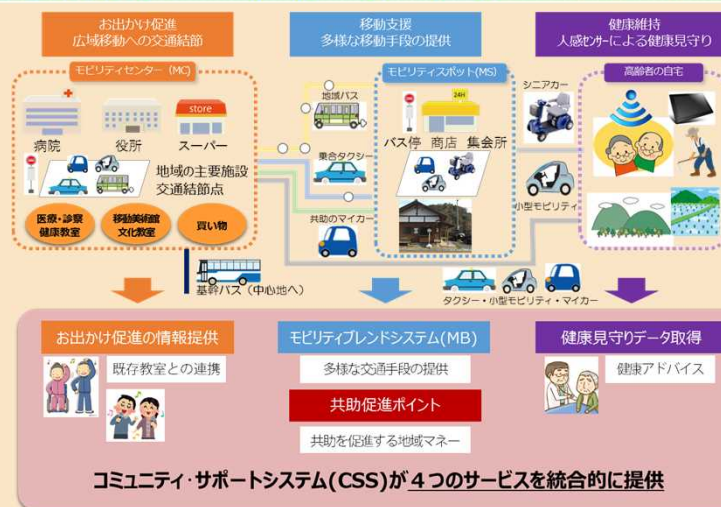
【対象者】	プラン1	プラン2
1人(日中独居含む)で暮らす高齢者	●	●
2人で暮らす高齢者	▲(要相談)	●
その他サービスを必要とする高齢者	—	●

【プラン別月額利用料】	プラン1	プラン2 (1人加入)	プラン2 (2人加入)
すでにネット環境がある場合	2,500円	1,000円	1,500円
新規に格安SIMを契約する場合	3,500円	2,000円	2,500円
新規にひまわりネットワークを契約する場合	5,300円	3,800円	4,300円

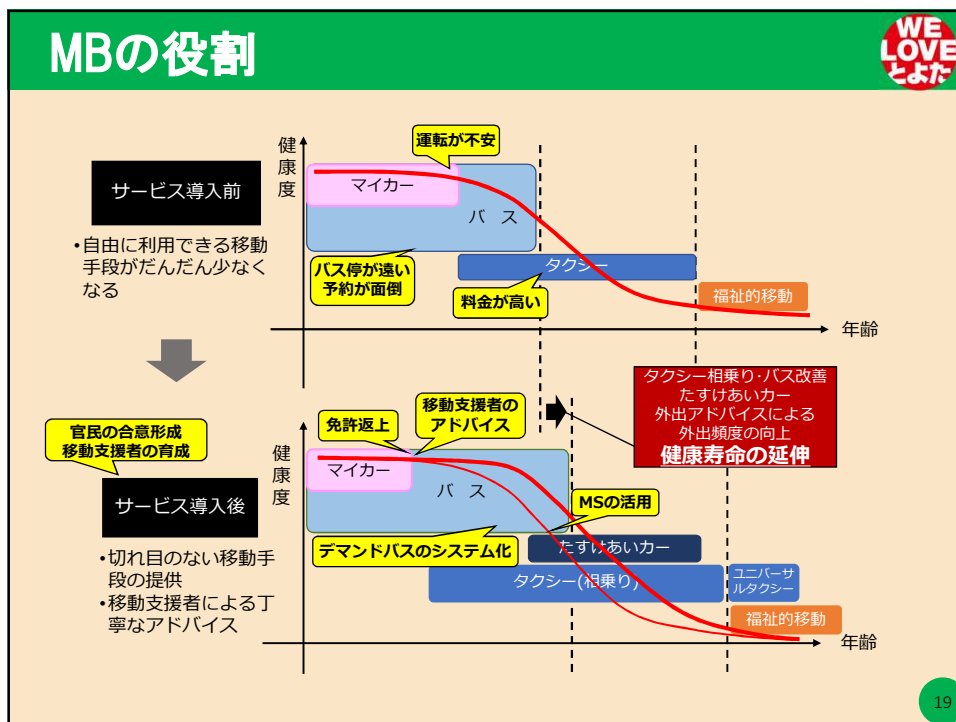
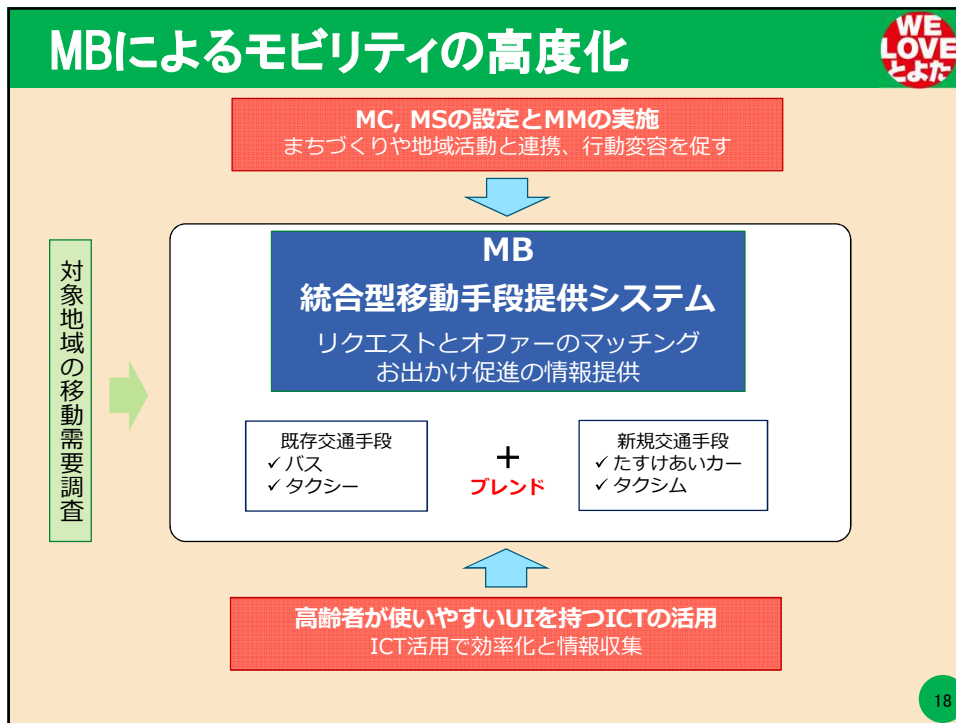
事業イメージ



中山間地域において、移動や出かけやすさを高めるための 社会システム(Community Support System, CSS)の構築と社会実装の実現



※1 Mobility Center : 交通結節点であり、移動の目的地(スーパー、病院、役所等)となる移動の拠点。
Mobility Spot : 地域の主要施設(コンビニ、商店、集会所)やバス停。



マイカー相乗り(たすけあいカー)



仕組み

- 住民の自家用車でボランティアドライバーが住民を運ぶ（会員制）
- タブレットのアプリから予約、システムがマッチング
- ガソリン代実費のみを地域ポイントで精算（無償運送の位置づけ）



20

マイカー相乗り(たすけあいカー)



21

マイカー相乗り(たすけあいカー)



移動手段の予約

カレンダーから参加したいイベントをタッチ



22

マイカー相乗り(たすけあいカー)



移動手段の予約

人数、時刻、出発地などを記入してお願いする。



23

マイカー相乗り(たすけあいカー)



移動手段の予約

マッチングできれば経路表示も



24

マイカー相乗り(たすけあいカー)



高齢者へのサポート

- 「院長サロン」
 - 「タブレット教室」
 - 「おひさまカフェ」
 - 「交流会」など
- お出かけイベント開催



足助病院内に「たすけあいプロジェクト」の事務所を設置

25

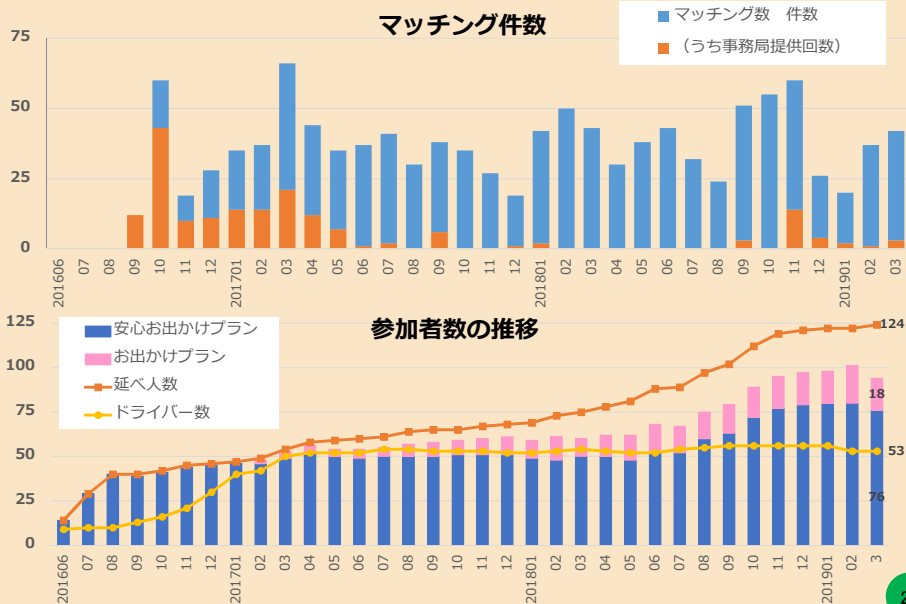
たすけあいカーの利用特徴



- 病院利用が90%以上（足助病院：約80%）
- 足助病院の内、通院は約40%、イベント約60%
- 一人での利用が約95%
- 登録者のうち比較的少数の人がヘビーユーザー
- 特定のドライバーに利用が集中

26

たすけあいカー実績



27

タクシー相乗り(タクシム)



■ 足助病院の総合受付のカウンター

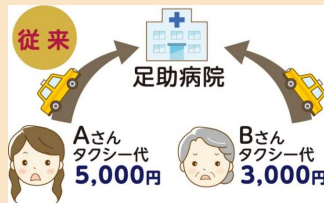


専用のキオスク端末を設置
カードで起動



入力は簡単
スタッフによる代行入力

■ 公平な料金負担

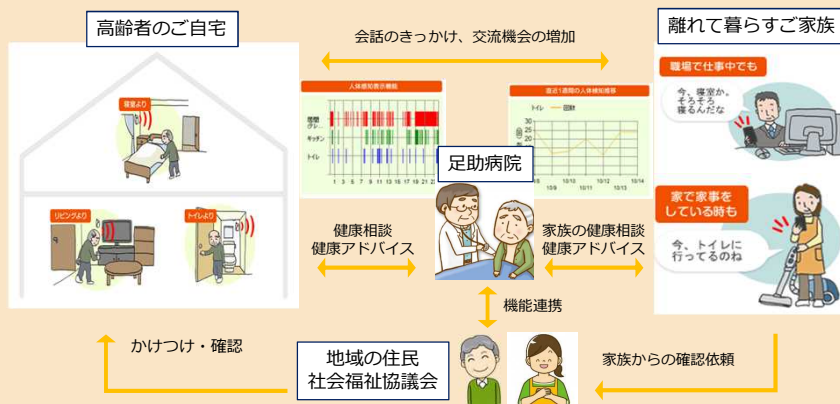


28

健康見守り



独居高齢者の住居の人感センサーの情報を、離れて暮らす家族と地域の医療機関で共有し、安否の見守りと健康アドバイスのサービスを提供



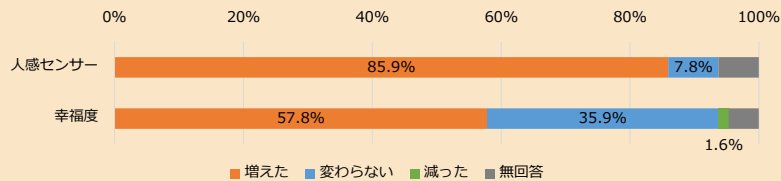
29

健康見守り

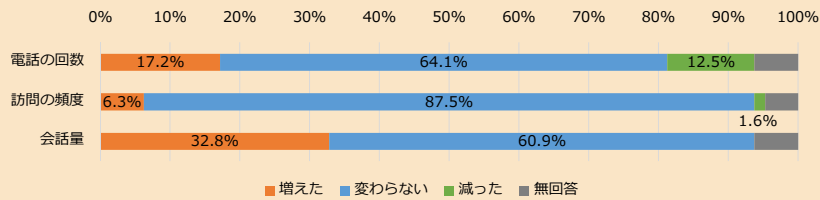


人感センサー・幸福度に関する家族へのアンケート結果 家族の安心感・コミュニケーションの向上

プロジェクト参加後の安心感と利用者幸福度の上昇



プロジェクト参加後のコミュニケーションの変化



n=64(全員人感センサー設置)

30

おでかけ支援

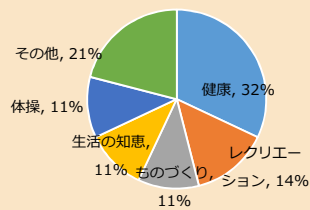


おひさまカフェの実施 高齢者の満足度・参加意向は高い

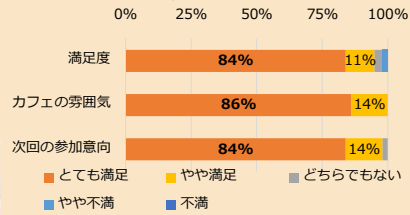
項目	値
開催回数	24回
述べ参加人数	332人
平均参加人数	13.8人
平均年齢	80.2歳



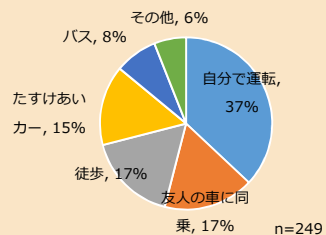
興味のあるテーマ



参加者の感想



お出かけ先までの移動手段



n=249

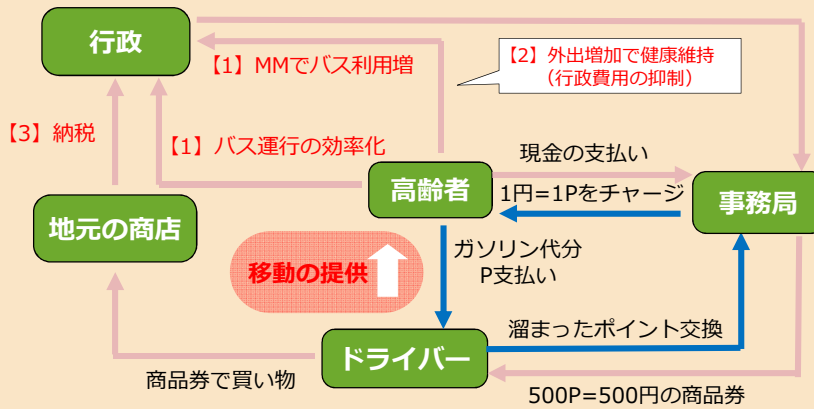
31

たすけあいポイントの運用



資金、ポイントの流れ

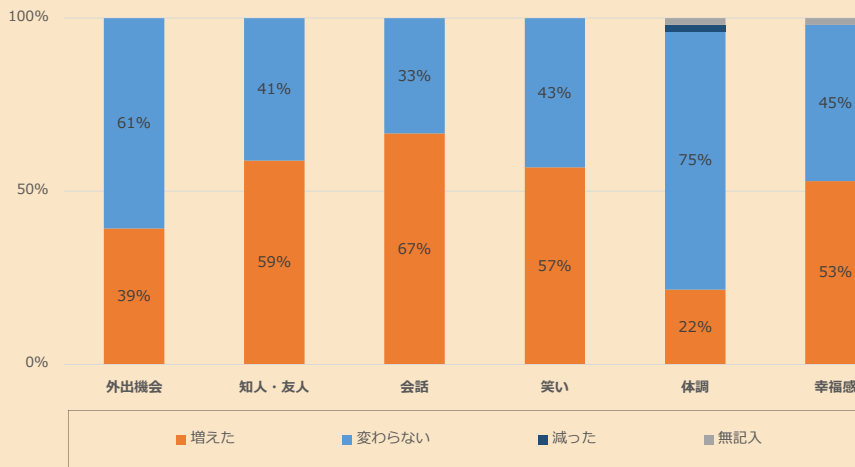
【1】～【3】の収入増（経費抑制）で運営費一部負担



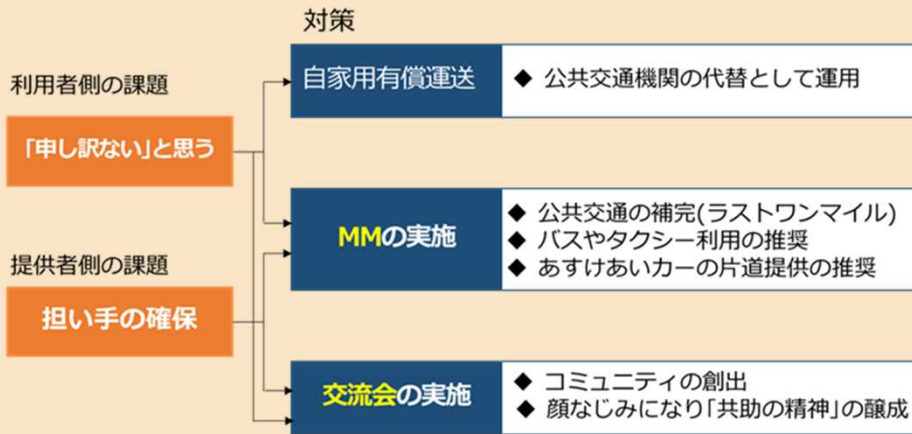
プロジェクトの効果



利用者に対するアンケート結果 外出機会など各項目に対する数値上昇



今後に向けて



34

行政の事業としての位置付け



行政の視点

～大学の実証実験（側面的支援）から行政の事業へ～

公共交通の補完
ドアツードア
運行の不確実性
低予算



公共交通ネットワーク
に位置づけ

他の公共交通手段
との調和

持続可能な仕組み
として確立

35

地域住民主体の里モビサークル活動



○地域住民自らが超小型モビリティ「コムス」を中山間地域に適した仕様に改造し、日常の移動用として活用⇒**里モビサークル**



○**里モビ出発式** 平成30年1月18日（木）@足助交流館

地域の課題やニーズを踏まえ、地域住民自らが中山間地域に適した仕様に改造した二人乗り超小型モビリティ(通称 里モビ)が、日本で初めて車両登録の認可を取得。



36

里モビLIFEプロジェクト



○**里モビLIFEプロジェクト**

こまでの実証で山村地域の高齢者において一定のニーズがあることがわかり、令和元年度からは、有償で地域の住民に貸し出し、地域での共有の可能性や超小型モビリティの活用で移動にストレスをかけない（時間をかけない）ライフスタイルのモデルを検証



名古屋大学から（一社）おいでん・さんそんへ車両29台を譲渡

38

37

高齢者の移動に関する総合支援



今後、高齢者人口が増加する中で、高齢者が『車を運転しなくてもよい環境づくり』と、『安全に車を運転できる環境づくり』の両輪で超高齢社会への適応を目指す。

方針1

車を運転しなくてもよい環境づくり

高齢者移動手段の確保

- 1 高齢者に適した移動手段の導入及び普及促進
- 2 バス高齢者割引制度の創設検討
- 3 タクシー助成の見直し検討
- 4 高齢者向けモビリティマネジメントの拡大

* 2～3は今後制度設計等を検討予定

方針2

安全に車を運転できる環境づくり

安全運転サポート車等の普及啓発

- 1 より安全性の高いクルマへの買い替えや後付け安全装置の設置促進
- 2 超小型車への乗り換え促進

38



こんな豊田市、知らなかった。
The other side of Toyota

こんな豊田市、知らなかった。
The other side of Toyota City

御清聴ありがとうございました。